

昭和六十三年現代宗教研究所事業報告

1、教化研究会議

(1)第二十一回中央教化研究会議

期 日 昭和六十三年九月六日(火)・七日(水)

会 場 池上本門寺・朗峰会館

宿 泊 朗峰会館

開催趣旨

①お題目総弘通運動第一期四年目にあたり、さらにお題目の輪をひろげるため、日蓮一門の意識を相互に高め運動の意識を確認しあい、その核となろう。

②現代社会における寺院(教会・結社)のあるべき姿を話しあい、立教開宗七五〇年に向け、開かれた寺づくり、伝道宗門の確立を計ろう。

③管区各寺のお題目総弘通や信行会活動の現状を報告しあい、各自の体験のもと、誰もが参加できる活動について意見を交換しよう。

④お題目総弘通運動推進のため、中央と地方における研究会議、教化センターの今後のあり方について、その方策を検討しよう。

統一テーマ

管区各寺の教化とお題目総弘通運動

——本音で語ろう、あなたと教化——

会議形式

(1)基調講演

「日蓮宗の教化とわたしたちの誓願」

石川教張(現代宗教研究所所長)

(2)事例報告

①「新しい村(正直村)づくりの試み」

内山智洋(帯広市法華寺住職)

②「教化センターの活動」

刀禰義昭(福岡教化センター長
北九州市大座寺住職)

分科会及びテーマ

第一分科会（教学部会）

「日常生活に密着した教学を考えよう」

第二分科会（寺檀部会）

「新しい信徒の獲得について」

第三分科会（法器養成部会）

「教化意欲をもたせる人材育成」

第四分科会（世代別教化部会）

「家族ぐるみのお題目信仰」

第五分科会（教化伝道部会）

「教化システムの新しい開発」

第六分科会（社会問題部会）

「社会問題とお題目教化」

第七分科会（教化組織部会）

「寺院間のネットワークづくりと教化センター」

開催方式

①告示と同時に別紙にて各分科会毎に二〜四項目の問題を設定する。

②出席者は一分科会を選び、その設問（必ず一つ以

上）について意見を事前に、現宗研に提出する。

③提出された意見は、運営委員会にてとりまとめ、開催当日はこれをもとに各分科会毎に更に討議を加えてもらい、全体会にてそのまとめを報告する。

④中央教化研究会においてまとめられたものは、教区の教研会議の資料や、今後の教化のハンドブックとして役立てられるよう、小冊子として刊行する。

日 程

第一日目 九月六日（火）

受 付 午前九時〜九時三十分（朗峰会館）

開会式 午前九時三十分〜十時三十分（本殿）

全体会議 午前十時三十分〜十二時二十分（朗

峰会館）

昼 食 午後十二時二十分〜一時（指定会場）

分科会 午後一時〜六時（指定会場）

懇親会 午後六時三十分〜八時（指定会場）

入 浴 午後八時〜九時

第二日目 九月七日(水)

起床・朝勤 午前四時三十分

朝食 午前七時三十分

分科会 午前八時三十分～十時(指定会場)

全体会議 午前十時～午後十二時三十分(指定会場)

教区別 午後十二時三十分～一時三十分(昼食)

懇談会 (指定会場)

誓願唱題行 午後一時三十分～二時(本殿)

閉会式 午後二時～二時三十分(本殿)

参加者

宗務所長より推挙委嘱された運営委員(管区二名)、尼僧法団、若干の参加希望者

参加費

会議費・宿泊費宗務院負担(但し交通費は自費負担)

(2) 教区教化研究会議開催

十教区にて開催した。開催日時・テーマは次の通りである。

(イ) 第四回山梨県教化研究会議

四月二十三日 中巨摩郡長遠寺にて開催

テーマ「お題目総弘通」

——ご利益と布教実践——

(ロ) 第十二回中四国教区教化研究会議

六月七・八日 小郡ホテルみやけにて開催

テーマ「お題総弘通運動と信行会活動の新しい

展開をめざして」

——新興宗教の教義としての実体、教

線拡張方法——

(ハ) 第十八回近畿教区教化研究会議

七月五日 守山市本像寺にて開催

テーマ「お題目総弘通運動を展開しよう」

(ニ) 第十二回北海道教区教化研究会議

八月二十四日 旭川市妙法寺にて開催

テーマ「本音で語ろう、あなたと教化」

(ホ) 第七回東北教区教化研究会議

十月五・六日 仙台市ホテル法華クラブ仙台に

て開催

テーマ「お題目総弘通運動の再点検」

——米から酒へ——

(ハ) 第十二回中部教区教化研究会議

十一月二十五日 伊勢市観光文化会館にて開催

テーマ「お題目総弘通運動と新宗教」

(ト) 第五回北陸教区教化研究会議

十一月二十五日 羽咋市妙法寺にて開催

テーマ「お題目の輪をひろげるために真のニ

ズを求めて」

(チ) 第十三回山静教区教化研究会議

十一月二十五日 三島市田代パレスにて開催

テーマ「お題目総弘通——その実践と反省——」

(リ) 第十回九州教区教化研究会議

平成元年一月二十・二十一日 別府市花菱ホテ

ルにて開催

テーマ「本音で語ろう、あなたと教化」

(ヌ) 第十四回京浜教区教化研究会議

平成元年二月七日 千代田区私学会館にて開催

テーマ「伝道教団の活性化の方策」

2、研究・調査活動

(1) 新宗教研究・寺院調査・お題目総弘通研究の各プロ

ジェクトにおいて、それぞれ調査研究を進めた。

(イ) 新宗教研究プロジェクト(片野博義・山口裕光・

植田観樹・西片元澄・白部哲応・勝呂昌信各研究

員)

新宗教教団より、本年度は、崇教真光・世界基

督教統一神霊協会・真如苑の三教団の本部に訪れ、

見学ののち本部の方より各教団の概要と現状につ

いて話をうかがい、まとめ報告を行なった。また、

新宗教についてのハンドブック作成のため、各教

団の沿革・教義・組織・布教体系・活動等を各担

当ごとにまとめた。

(ロ) 寺院調査プロジェクト(渡部公容・蓮見高純・

本良信典・鈴木浄元・望月兼雄・常岡裕道・高橋

謙祐各研究員)

現宗研が年来進めてきた過疎地域寺院調査を総

括し、地域別に各々の寺院の現状と問題点をわか

りやすい啓蒙書としてまとめ、発行した。

(イ) お題目総弘通運動研究プロジェクト(古河良

皓・大島啓禎・嶋田堯嗣・伊藤立教各研究員)

本宗における過去の宗門運動の総括を行い、その成果と反省点を把握し、また、お題目総弘通運動の過去三年間の点検とともに、運動の基本理念と目標の再検討を行なった。

(2)研究講座・教化学研究集会を開催した。

(イ) 第十回教化学研究集会を大阪市雲電寺にて開いた。

研究講座

「新宗教の教化——法座活動について——」

赤堀正明(現宗研主任)

研究発表

声明・レクイエムの公開を通じて異例な宗教の

社会参加を図る

——社会教化活動の一形態——

竹内祥起(大阪府)

知恵粥の復興を願う

清水学励(京都府)

自坊の縁起

中井泰淳(兵庫県)

(ロ) 第十一回教化学研究集会を東京大田区民会館に

て開いた。

研究発表

心の病と日蓮宗教化

渡部公容(現宗研研究員)

安楽死問題と日蓮宗教化

古河良皓(現宗研研究員)

事例発表

沖繩宗教事情と青少年教化

鹿糠堯順(沖繩県)

(3)研究セミナー・研究懇話会・座談会の開催

(イ) 八月三十日、現宗研にて数年来行なってきた過

疎地域寺院調査のまとめ作成のため、調査地域にて実際に活動されている若い教師五名の方々に集まっていただき、過疎地域における寺院のあり方・今後の方向はどうあるべきかについて、過疎地域寺院若人懇談会を開いた。

(ロ) 平成元年二月二十一日、現代宗教研究セミナー

を宗務院にて開いた。今回は、神奈川大学外国語

学部教授湯田豊氏より、「聖書と仏教」と題して講演をしていただいた。

(4) 研究例会

年来のテーマ「現代社会の諸問題と日蓮宗教化」をまとめるにあたって、各テーマの発表と問題点を研究員間で討議した。

テーマ・発表者は次の通り。(発表順)

高齢化社会と日蓮宗教化(大島啓植)

家庭・家族問題と日蓮宗教化(蓮見高純)

新新宗教と日蓮宗教化(片野博義・植田観樹)

環境問題と日蓮宗教化(常岡裕道)

核問題と日蓮宗教化(伊藤立教)

教育問題と日蓮宗教化(高橋謙祐)

非行問題と日蓮宗教化(本良信典)

(5) 各種伝道教化研究に関する資料を収集し、保管した。

(6) 教団史研究資料の一つとして、各種資料より「昭和六十二年度日蓮宗年表」を作成、配布した。

3、出版・資料収集

(1) 「現代宗教研究」第二十三号を編集し、全寺院に配

布した。

(2) 研究例会にて発表された、「現代の諸問題と日蓮宗教化」について一冊にまとめ、「現代宗教研究」別冊として全寺院に配布した。

(3) 昨年度行なわれた「一歩外から見た日蓮宗」(昭和六十二年十二月二日)「教団論」——日蓮宗の現状と未来を考える」(昭和六十三年一月二十一日)の座談会の内容を「現代宗教研究」別冊教団論として編集し、全寺院に配布した。

(4) 従来継続してきた「過疎地寺院実態調査」を総括して読みやすい形に編集し、全寺院に配布した。

(5) 人権問題対策会議の委嘱により、人権シリーズI「人間の尊厳と法華思想」、人権シリーズII「部落解放への道」の作成にあたり、配布した。

(6) 新宗教関係資料を収集し、保管した。

(7) 伝道・教化・研究に必要な図書を購入した。

4、会議

(1) 中央研究の決議に沿って、日蓮宗教化センター設置を推進し、各地域教化センター間の連絡会議を開き、

意見交換を行い、関係資料を交換して研究交流を深めた。

(2) 真言宗豊山派布教研究所主催「各宗教化関係研究機関連絡協議会」(平成元年二月二十八日)に参加し、テーマ「教化の方向を考える」のもと、各宗団における教化活動の問題点と、研究所、教化研究の在り方、将来の展望などについて意見交換を行い、関係資料を交換して研究交流を深めた。

(3) 顧問会議・嘱託会議・研究員会議を開き、研究所・研究の在り方などについて討議を重ねた。

(4) 教区・管区主催の各種研究会議・研修会などに出張した。